

ASEAN グローバルプログラム に参加して

杉本 康浩
Yasuhiro SUGIMOTO
環境ソリューション工学科 2年

1. はじめに

2017年8月29日から9月7日までの10日間、ベトナムのハノイ及びその周辺とシンガポールで、ASEAN グローバルプログラムに参加した。今回のこのプログラムに参加した主な目的は、考え方や価値観の違う人との関わっていく中で、どういう風に自分の考えを相手にわかりやすく伝えるかを考え、学ぶことであった。今回の研修日程を表に示す。

表 プログラムの日程

8月29日(火)	ベトナム入国(ハノイ) オリエンテーション(ホテル)
8月30日(水)	企業訪問(3企業)
8月31日(木) 9月1日(金)	ハノイ工業大学において 現地学生とのPBL および発表
9月2日(土)	博物館見学等、自由時間
9月3日(日)	ベトナム出国、シンガポール入国 博物館見学等
9月4日(月)	南洋理工工科大学において キャンパスプログラム
9月5日(火)	トークセッション(2名) ビジネスパーソンとの交流会
9月6日(水)	自由時間(オプションツアー) シンガポール出国
9月7日(木)	帰国

2. 志望動機

今回私がこのプログラムに参加した理由は、大きく分けて2つのことができると考えたためである。

1つ目は、日々を丁寧に生きることであると考えている。就活になると学問についてだけでなく大学での経験を話さなければいけないと考える。そのためには自分が大学生活で何をやってどう感じたのか

を覚えておかなければならない。そのような思考の解像度や選択の解像度を上げるためには一日一日を常に振り返ることが必要である。具体的には一日の振り返りを手帳に記入することであるが、ASEAN グローバルプログラムでは一日一日を振り返られる機会が多くあると思い、これを高められると感じた。

2つ目は形にはできない財産の貯蓄であると考えている。私は財産には生産性の財産、活力性の財産、変身性の財産があると考えている。生産性の財産は語学力やコミュニケーション力などの自分のスキルアップにつながる財産である。活力性の財産は信頼で、信用できる友人をつくることで自分のモチベーションの向上につながる財産である。最後の変身性の財産については、自分は将来的に転職するかもしれないと考えているが、そのときは自分の行きたい業界のことを理解しておく必要があり、そのためにはその業界の人から話を聞かなければいけないし、そのためには人脈がなければいけなく、今回いろいろな人と話すことによってこの財産が得られると考えた。

3. ベトナム人大学生との PBL

PBL では「ベトナムで日本発のブランド『UNIQLO』の商品を売る」という目的に対して「何の商品が売れるのか」、「売ろうとしている商品は、どのように工夫すれば売れるのか」を班で事前に調べ、仮説を制作した。その後、仮説が立証されるのかを確かめるためにベトナムの学生と一緒にアンケート調査を行い、その結果を基に仮説がどうだったかも含め、自分たちの班が売りたい商品をプレゼンテーションするというものであった。

今回一緒に PBL をしてくれたベトナム人学生はどちらも女性で英語とベトナム語が堪能だった。一日目のアンケートの作成の時は自分の英語の能力がないため、主導権を握られたままベトナム人学生のペースで自分たちの思うような計画で進めることができなかった。英語は話せた方が良かったと感じた。

そして、それは文系・理系は関係ないと身をもって感じた。しかし、2日目は自分たちの伝えたいことを英語で紙に書いて見せることによりベトナム人学生も理解してくれたので、アンケートの作成がスムーズに行われた。

マーケティングリサーチでは1日目はベトナム語でつくったアンケートのパソコンがつぶれていたため英語のアンケートしかなかった。そのため、母体数を稼ぐのに苦労した。ベトナム語しか話せない人には何もできず、ベトナム人学生が話しかけているのをただ突っ立って見ているだけだった。2日目は大学内での調査だったため英語だけでなく、日本語でも会話ができてやりやすかった。また、授業の休憩中にお邪魔してアンケートをとったりして母体数を稼いだ。

プレゼンテーションではアンケートでベトナム人のニーズを聞き出して、商品の特徴を全面に押し出した内容だったため結果は8班中2位だった。

4. 今回のプログラムを終えて

今回のプログラムでは当初の日本で予想していたことよりも多くのことを得ることができた。そのため10日間をとっても短く感じた。私が今回の体感プログラムで感じたことは2つある。

1つ目は自分の未熟さである。今まで自分はいろんな経験をしてきた。それによって自分は何でもできるのだ、自分は周りの人よりも優れているのだと慢心していた。しかし、今回英語やベトナム語が話せないと何もできないという状況の中で自分自身の未熟さを感じる事ができた。そして、自分が今まで周りよりも優れていると思っていた部分はあくまでも一部分であり、人の全体的な部分で見ると何も変わっていない、または上には上がいるのだと実感

した。だから、自分は何事にも謙虚な姿勢で人に勝つというよりも人から学ぶということを大切にしたい、これからの学生生活を送っていききたいと感じた。

また、改めて英語の重要性を感じたので自主的に英語の練習ということもこれからやっていきたいと感じた。そして、同時に日本では英語を使う機会が少ないとも感じた。ベトナムやシンガポールでは外へ出ると母国語以外の英語が溢れており、特にシンガポールではメニュー表も英語の他にもヒンドゥー語や中国語などの様々な言語が記載されていた。しかし、日本に帰ってみると台湾料理店でもメニュー表にはすべて日本語で書かれているところがあったりして、日本語以外の言葉を見るという機会はあまりないと感じることがあった。だから、英語を使わざるを得ない状況に自らを置いてこれから勉強していこうと思った。

2つ目は貧富の差が大きいということである。今回行かせていただいたベトナムは日本と比べると物価も安く、給料も少ない。そしてそのことはこのプログラムが始まる前から分かっていたはずだった。しかし、実際に行ってみてそのことに身をもって感じる事ができた。例えば、工場見学でほとんどの作業を手作業で行っており、町へ出るとドアマンが常駐していた。その理由が全てを機械化するよりも人が行った方が安いためであると理解した。そういったところでも日本とベトナムの貧富の違い、文化の違いというものを見ることができた。そして、それと同時にグローバル化は時間がかかるが必ずしないといけないことであると強く感じた。

最後にこのプログラムで関わった友達、引率の先生方、現地の日本人スタッフ全ての方々に感謝の言葉を伝えたい。